

第 2 回大田市学校のあり方に関する計画等検討委員会 会議録

日 時	令和 5 年 1 1 月 7 日 (火) 1 4 : 0 0 ~ 1 6 : 2 6		
場 所	島根県立男女共同参画センターあすてらす 3 階 研修室 1		
出席者	委 員：1 5 名 / 1 7 名 (欠席委員：岩倉善光委員、中尾祥子委員) (代理出席：堀江真佐邦第二中学校長 ※和田美佐委員の代理) 事務局：武田教育長、森教育部長、縄総務課長、 渡邊総務課長補佐、清水学校施設係長、清水学校再編係副主任 川津学校教育課長、俵学校教育課主査、原田指導主事 山根学事・魅力化推進室長、矢田山村留学センター長		
傍聴人	2 5 名	報道機関	4 社
次 第	別紙のとおり		
概 要	以下のとおり		
附 記	本委員会は原則公開		
<p>●学校視察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視察場所：大田市立大田小学校 ・所要時間：3 0 分 (1 3 : 1 0 ~ 1 3 : 4 0) <p>1. 開会 (進行：渡邊課長補佐)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員の半数以上の出席 (2 名欠席) を確認後、本委員会の成立を報告 (検討委員会設置要綱第 6 条第 2 項による) <p>2. 加藤委員長挨拶</p> <p>前回会議の中で「私達が今話し合っていることは、子どもたちが大人になったときに大田の教育はどうだったかを考える大事なメッセージ」という発言があった。私もそのとおりだと思った。大田の子どもたちが学校を卒業したときに「自分はこの学校で勉強できてよかった」と思えるような学校を作っていきたいし、子どもたちが大人になったときに「私はここで暮らせてよかった」と思える町になると良い。この検討委員会での協議の内容はそういったことに繋がっていく。時間に限りがあるが、たくさんの意見を頂戴したい。</p> <p>3. 第 1 回会議の議事録の確認 (進行：加藤委員長)</p> <p style="padding-left: 2em;">修正指摘 1 箇所</p>			
議事録に係る意見			
発言者	内 容		
委員	<p>本日の説明に入る前に少しお話させていただきたい。日本の学校教育は明治以降の急速な人口増加に対応するためにどんどん学校を作り、教育体系を構築してきた。しかし、1 5 0 年の歴史の中で私たちは初めて人口減少社会に直面している。それは教育において大問題。それがつまり前回の教育長の発言にあった“大人のチャレンジ”に繋がるのではないか。</p> <p>また、急激な人口増に伴い学校教育は集团的・同調的・均一的な学校文化を続けてきた。そのため今日、多様化して集団に馴染めないという生徒が非常に増えたという流れがある。そのため文科省も不登校の子どもたちを念頭に置いて、フリースクールや夜間学級が出来る体制を法的に整えた。</p>		

	こうして見ていくと大田だけではなく、日本全体が人口減少社会でどのように学校教育を構築していくかという共通認識が必要。
委員長	ありがとうございました。非常に大事な指摘。本日の議論の中でも関わってくる内容。
<p>4. 説明（進行：加藤委員長）</p> <p>(1) 大田市教育ビジョン基本構想について（説明：森部長）</p> <p>(2) 大田市学校の学校のあり方に関する基本方針について（説明：森部長）</p> <p>(3) 第1回会議における意見等への対応について（説明：縄課長）</p> <p>○教育長発言</p> <p>この度の再編統合にあたり “時代の流れに乗り遅れない” “大田市ならではの教育” “大田市を支えていく子どもを育てるためによりよい環境はどうあればいいか” ということを教育委員会或いは市を挙げて全力で取り組むつもりである。大田の教育を魅力的にするためには、これまでのように地域の皆様のお力はもちろんだが、その中の価値観だけでは変えていけない。したがって、外部からもあらゆる人を巻き込み、前例慣習に捉われない自由な発想で教育を考え、魅力を創出していかなければならない。</p> <p>これまでは地域の愛情の中で子どもたちを育てていくことができた。だが今は違う。子どもたちがふるさとのことを知って学び、そして将来大きな世界に出てたくましく生きていける、そういう力を身に付けさせなければいけない。そして最終的にはこの故郷を支え、盛り上げてくれるたくましい人材になってもらいたいと思っている。そのためにある程度互いに切磋琢磨し合い、新しい世界を見て刺激し合い、いろんなタイプの人たちともうまく付き合っていけるような社会性を身に付けなければいけないと思っている。</p> <p>そのためには、このタイミングで21校の学校をいくつかに集約していくことが私たちに求められている。大田市のこれまでの強みや魅力、そして地域資源を生かした独特な学校づくり、多様な選択肢を作っていかなければこの社会に適合していかない。魅力ある学校づくりに市外の皆さんも魅力を感じ、大田市の学校に通わせたいという気持ちが生じてきたならば、それで関係人口の増加となる。</p> <p>私が考えている学校の一つ目は、大田市の自然などの宝を活かした体験型の学習ができる学校。そして町中からも通えるよう校区を少し緩め、特別な教育課程が体験的にできる学校。二つ目は、不登校、或いは画一的な学校教育に馴染めない子どもが大田市でも増えている。さらに外国をルーツに持つ子どもも通っている。このような子どもたちも学ぶ権利を持っている。学びの多様化学校を作りたい。1日の時程はゆっくりしており、年間時数も抑えられ、個々の子どもの実態に応じた特色ある学校。この二つは文科省でも全国を挙げて進めたいというものなので、県内先駆けて大田市で作っていければと思う。また、大田市の教育を支える基盤としてユネスコの理念があるので、教育現場で実践できるユネスコスクール、世界遺産石見銀山のある大田市でこそ世界と繋がる学校が三つ目。四つ目に現在大田市は様々なところと協定を結んでいるので、それを活かしていきたい。例えばスポーツや文化芸術、バーチャルに長けた学校。五つ目に小・中学校のときに十分に学べなかった、または学び残しがある方に対して、学びなおしができる学校が作れないか。六つ目に、小・中学校の9年間をひとくくりにして連続した学びができる学校。これは志学や北三瓶で既にできているため、小中一貫校や義務教育学校はその中に含めていくことができると思っている。このようなアイデアの上に皆様から意見をいただいて、教育委員会を挙げて進めていきたいと思っている。</p> <p>さらに言えば、教育委員会から各学校に対して学校性を打ち出した明確なミッションを示して、校長を中心に教員の皆さんで作ってあげていくようなシステムに変えていかなければならない。</p>	

一方、地域とともに地域の担い手を作っていくという視点で申し上げる。地域にお願いという形になるが、今後は地域においても学校が地域づくりやまちづくりに密接に関わってくると思う。それは学校がどういうふうに地域に繋げていくか、地域との話し合いが求められている。つまり、自分たちの地域にある素晴らしい資源でこのようなことができるということを提案いただきたい。そしてみんなでそれを作っていきたい。私たちの出した統合再編案はたたき台であるので、地域の声を入れながら、豊かな実現可能なものにしていきたい。そうは言っても人口減少により地域力は低下している。地域間で手を繋いで、複数の地域で一つの学校を支えるという仕組みに変わっていくと思う。そしてその中でも、熱量のある地域が周辺の地域を巻き込みながら、学校づくりに関わっていける体制を進めていきたいと考えている。

説明事項に係る質疑応答

発言者	内 容
委員	<p>平成28年策定された大田市教育ビジョン基本構想からずいぶん経っているが、教育長の発言にあったような魅力化とは何かというものを具体的に落とし込んでいただきたい。現在の状況を考えた上で何が足りないのか、どうすべきかをブラッシュアップして、ビジョンに変えていくことが大事だと思う。</p> <p>これから10年20年先に、子どもたちにどのような教育をすべきというのが、ここ5年ぐらいで大きく変化していると感じている。これは小・中学校だけではなく、高校も高等教育機関の我々もそのようなことが求められている。例えば21世紀型スキルという言葉がある。学びの3要素は押さえているが、その中には仕事の道具として将来働く上で必要なスキルや、リテラシーというものが実はあまりビジョンの中に書かれていない。ICTなど新しい技術は“活用”で終わっているが、これからの子どもたちには、地域からそれを変えていく人材を作っていけないといけないと考えている。国はAIだけではなく、社会を変える人材を作ることを求めている。そうすると、小学生時代、中学生時代、多くの子どもが市内の高校に進学するので、18歳で卒業するまでにどんなスキルや思考力、創造性を育みたいかというロードマップがあるのが具体化となる。ぜひそこを考えていけたらと思う。そうすると、施設として必要な機能や規模が見えてきて、なぜ統合して新しいものを作るかということが、具体的に考えることができる。それは数の議論ではなくて、今後どのような学校教育をするかというふうに変わってくると感じた。</p>
武田教育長	<p>教育委員会ではビジョンも作っているが、今のお話からもう一度綺麗に整理をしていくと、改めて自分たちがどういうところを見ながらどういう切り口で統合再編を進めていけるかっていうものがはっきりすると感じた。</p>
委員	<p>ダイバーシティと呼ばれる世の中で、武田教育長が多様性を受け入れて様々な子どもたちに対して手厚くするというアイデアを考えておられることに非常に感銘を受けた。ただ、小・中学校の9年間で多様化した大田市の子どもたちが、その後どういう進路を選んでいくかが非常に不安に思う。今言われたようなところで育った子たちは、恐らく大田高校、邇摩高校は選ばないのではないかと、いい意味での危機感を感じ、我々はそのれに対して変わっていかなければいけないと思っている。高校も魅力化があるので、まさに一緒にやっていかなければいけないと非常に強く思っている。幸いにも、大学は入試の方法が大きく変わってきており、今後は6割が総合型選抜、いわゆるやってきたことを面接などで判断する新しい学力を試されるもの、旧来型の一般入試が4割。高校も対応していかなければいけない中で、小・中学校でそのような多様性を持った子どもたちが育っていくのは非常にいい流れだと思う。だが、本当はその中で一番変わらなければい</p>

	<p>けないのは、大人の考え方。世の中が大きく変わっていることを、この地域の大人みんなが考えて、小・中・高の教育、進学・就職先選びというのを考えていかないと、旧来型の、偏差値の高い大学に行ってそれが幸せという世の中ではなくなるはず。とにかく偏差値ではないというのを、この大田市の大人がどれだけ認識して考えられるかが今の武田教育長のプランが受けられるかにかかってくる。10年後20年後人口が減っていく中で、いわゆる競争社会ではない世の中になっていくことをどれだけ大人が考えて、大人が大きく変わり、それを子どもたちに還元できるかが勝負どころだと感じた。</p>
武田教育長	<p>私たちが昨年度から100回近く地域を回っているが、やはり地域に続いてきた価値観をどう崩していくかが大きな壁。大田市の人口統計を取ってみると、他の世代は下がっているが、60歳代あたりは一定した人口が保たれている。受け継がれてきた価値観が大田市ですずっと続いていくという現象もそこから読み取れる。そのため先程発言したように、外部の価値観で内部の価値観を変えていかないといけないのではないか。大人こそ、未来がどういうふうになっていくかを子どもたちとともに知っていかなければいけないのではないか。これは大人も予測できない社会になっていくので難しいことだとは思っている。</p> <p>そこで、一つは夢ランドと言う、大田市の教育の中で様々な方から提言いただくというイベントを開催することとした。そこにはIT企業やメディア、起業家の方などを市内外から呼んだ。また、子どもたちも小・中・高一緒になって、時代の最先端の仕事をしている人たちの話を聞いて意見交換をすることを始めて今年で3年目。そこは子どもたちというより、地域の大人がどう自分自身のこれまでの価値観から殻を破る新しいものにチャレンジすることにかかっている。大きい壁だが、いつか誰かがチャレンジしていかなければならず、それが今と捉えている。</p>
<p>(4) 追加資料の説明（説明：渡邊課長補佐）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区別出生数について ・通学バスにおける通学時間について <p>(5) 意見交換</p>	
説明事項に係る質疑応答	
発言者	内容
委員	<p>現在は朝波小学校、高山小学校、大田小学校、各中学校の生徒がバスを利用している。今後学校再編を模索される中、スクールバスでの送迎を前提ではなく、路線バスの利用も視野に入れてもらいたい。確かに通学にかかる時間など課題はあるが、路線バスを利用し様々な方と関わる中で地域との繋がりを学ぶことができる。例えば大田西中の生徒だが、朝晩通学の際、自主的に高齢者や障がいのある方に席を譲ったり、荷物の積み下ろしを手伝っていると聞く。当然のように行われる一連の行動について、県外のお客様から驚かれたという話があった。こういったことから社会教育の一貫として利用することに意義はある。また、新たに専用スクールバスを運行すれば、莫大な費用がかかり財政的にも負担になる。この点についても、既存の路線バスの利用をお願いしたい。</p> <p>近年では路線バスの利用客の減少や担い手不足が問題になっている。県内でも減便や路線の廃止が取り出されている。超高齢化時代が進んでいく中、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、交通弱者の移動をどう守っていくかという路線バスの維持も関わってくる。住み続けられるまちづくりでいう点からも慎重検討いただきたい。</p>
委員長	<p>いくつか質問をまとめて事務局に回答いただくので、他に質問などあれば発言いただきたい。</p>
委員	<p>スクールバスを利用した場合の通学時間一覧の中で、中学校は部活のために早く出る</p>

	<p>ので、7時より前に出発するという事はわかる。小学校では一番早い出発が7時15分となっている。ただ、これはバスが出発する時間であり、子どもたちはもっと早く家を出る。もしかすると7時前に家を出ている子どももいるのかと少し心配になった。ただ、徒歩通学の場合も、私が勤務していた学校では7時ぐらいから歩き始めるため、そう考えるとさほど現状と変わらない。ただ、これが今後再編した時子どもたちが朝何時に出ないといけないか考えていけないといけない。</p>
委員長	<p>通学について他に意見があるか。</p>
委員	<p>同じくスクールバスのデータから、逆に言えばどれぐらい時間かかるのを許容していくかという話になる。自分が小学生のときは歩いて約1時間、中学校はスクールバスだったが、一番早い人は6時から2時間近くバスに乗っていた。通学に係る時間はできるだけ短い方が良いが、今後どのように考えていくかということがある。私は比較的乗車時間が短いなと思ったのが正直な感想。</p>
委員	<p>先程偏差値の話が出たが、この検討委員会の中で学力とは何かいうことを議論して共通認識を立てていけないといけない。私自身は、全国学力テストに反対。結果を持って学力がある・ないという判断をしてはいけない。そのあたりを地域の大人たちに説明するが難しいとのことだが、どういうふうに説明するかが極めて大事。</p> <p>また、教育ビジョンの後期計画が手元にあるが、これ自体検討委員会が開かれる前から実態にあっていない。大田市は2020年に多文化共生推進計画を策定しているにも関わらず、これには多文化共生や国際教育という視点は全くない。そういうことをこの検討委員会で議論するときに、教育長の発言にあるような新しいミッションで変えていけないといけないということは賛成。ただ、後期計画は令和7年度までなので、これを残すのかという判断は教育委員会でしていただきたい。</p>
委員長	<p>通学バスや学力、あるいは教育ビジョンについて話が出たが事務局いかがか。</p>
森部長	<p>路線バスの活用をという話があったが、先般庁内の他部署を交えた会議では、担当課から路線バスの維持など様々な視点から総合的に判断してほしいと意見があったので、庁内でもしっかり議論していきたい。ただ、池田小学校が川合小学校と統合した際、小学校一年生を路線バスに乗せるのが非常に心配だという声があった。先程の意見を聞きながら、それであれば低学年は小型のスクールバス、高学年になって路線バスに移行するハイブリット型も考えた。</p> <p>また、通学時間についての意見をいただいたが、時間は保護者の皆さんと協議の上決定したもの。教育委員会だけで決めるのではなく、保護者の方或いは地域の方々としてしっかりと通学に関しては議論を重ねていきたい。</p> <p>あわせて、三中と一中の統合について議論があった際、大代方面の生徒は1時間以上バスに乗らないといけなくなり、それはどうかということもある。様々な視点から見て考え通学を考えなければならない。</p>
武田教育長	<p>教育ビジョンがマッチしていないのではないかという意見はごもっとも。私たちの中でも、このビジョンを読み合わせた上で今のニーズにマッチしていない点は気になったところである。令和7年度と言いつつ、これをどうしていくかというのは事務局内で協議を進めている。ついては先程指摘もあったため、私が述べさせてもらった意見等再度読み合わせ、整合性が持てるように、或いは具体的なものに進めていけるように整理していきたい。ご指摘ありがとうございました。</p>
委員	<p>教育長の発言から教育委員会としての強い決意や意気込みは十分伝わった。これは教育委員会サイドだけの意気込みで終わってはいけない。ましてどういう再編案になれども、地域に課せられた責任、地域で活動しているものに対してもある。大変大きな球を</p>

	<p>投げられたのではないかと思う。我々は総合計画に基づいた地域づくりを一緒に進めている。そこで質問だが、このような検討委員会の議論の中で「大田市を挙げて」ということが盛んに言われているが、その姿がどういう形で現れてくるのか。例えば総合計画も見直しをして、そちらの方も見直すとか、そのための手法は行政としてこういう対応をとるとか、そういうのが同時に地域に示されないか。先程から指摘されているように、地域力というのは落ちているため、より広いエリアで学校を支えるということになると、理屈はわかるが地域間の連携は地域におまかせではできないと思う。そういう意味でも行政側はどういう対応をとるのか、これは市議会等での議論かもしれないので私が申し上げることではないかもしれないが、地域にとって地域づくりをどうしていくかは、大きな宿題だと思っている。回答はできないと思うが、庁内横断的なプロジェクトチームを作り行政計画を見直して、一緒になってこの再編を応援しようということであれば、我々も諸手を挙げて賛成する。</p>
森部長	<p>最初は現在の学校のあり方に関する実施計画の中の「令和8年度まで小学校は再編しない。中学校は状況に応じて検討する」という文言を変えるというのが議論のスタートであった。それは我々の安易な考えであったかもしれない。第1回目の中で、まずは教育に対するビジョンを示してほしいという発言があり、今回は地域づくりと教育での関連を、市全体としてどうしていくのかを示して欲しいということであった。私自身としてはありがたいご意見を頂戴しながら検討委員会を進めていけていると思っている。今日いただいたご意見は、先程申し上げた庁内の連絡会議でもう一步踏み込んで、学校再編に伴い地域づくりをどうしていくのかという視点で投げかけていきたいと思っている。教育ビジョンもどういう形で変えていくのかは検討中ではあるが、このようにご指摘をいただきながら、パーフェクトではないが、一つずつ着実に何かを変えていき、皆さんにご提示し、こういう場で意見交換をさせていただきたい。計画を作ったら5年間10年間は変更しないのが今までの時代だったとすると、これからは1回作っても柔軟性を持って見直して議論するというくらい、時代のスピードは早いということを皆さんと認識しながら進めていっても良いと考えている。すぐにどういう形にするか示すことはできないが、小さいところから変えていき、極力早くお示しをしていきたい。</p>
委員長	<p>資料の中に第1回検討委員会が出た意見に対する回答があった。今日の意見を踏まえて、次回事務局から回答があると思う。この積み重ねで教育ビジョンをどうするのか、或いは市の方針をどうするのか、少しずつ考えていけると思う。</p>
<p>5. 議事</p> <p>(1) 短期・中期的な取り組みについて</p> <p>1) 五十猛小学校、鳥井小学校、静間小学校の統合について（説明：縄課長）</p>	
<p>議事に係る質疑応答</p>	
発言者	内容
委員長	<p>事務局から校舎施設の状況や今後の児童数の見込みも踏まえて、緊急避難的に五十猛小学校・鳥井小学校を静間小学校に統合及び移動させて安全確保を図りたい、という内容の説明があった。それに関わって実施計画に記載する内容の案も示された。</p> <p>事務局の説明にあたり質問などあれば伺う。</p>
委員	<p>今回緊急避難的にこのような考えを出すのは理解ができるが、この3校が一緒になったその先を考えた時、以前出された素案のように3校は同じところに行くという考えを出されるのか、それとも今回は緊急避難的なので、3校が必ずしも同じ学校に行くのではなく別の学校に分かれるのか、そのあたりはどのように考えているのか。</p>
委員長	<p>いくつか質問を受けたいが、ほかにあるか。</p>

委員	<p>今回施設の老朽化により緊急避難的な統合という形で進むということだが、総合計画や施設の適正化等を踏まえた上でこういった学校施設の長寿命化計画は具体的に作成されているのか。</p> <p>また、今後5年10年で一気に状態が悪くなるようなことが進まないよう、その都度ではなく、市として適切な維持管理の計画がされているのか。資料を見ると、年間全体で維持管理費は約1000万円。1000万円で何校見ているかという話だが、非常に少ないなというように感じた。そこのあたりの考えを聞きたい。</p>
縄課長	<p>まず3校統合の今後について申し上げますと、我々とするとは一度一緒になった学校はなかなか分けにくいということは一つある。この小学校3校は同じ中学校区でもあり、3校が統合して更なる再編となったとき、その中学校区の小学校を一つのまとめていくような素案を作っている。今後委員の皆様の考えも聞きながら、数合わせでない再編を考えた時、我々とするとは3校は今後も一つの学校にと思っているが、それぞれまた別の学校にということもこの先可能性としてはある。</p> <p>次に施設について。これまで大田市は学校施設も含めて、施設の長寿命化に関してかなり疎かだった。学校自体も長寿命化は出来ておらず、その時々に対応になってきたというのが現実。今回の学校に関しては、こうなった状態ということで理解をいただきたい。長寿命化計画や施設の維持管理計画ができていないということは大きな課題であり、今後速やかに着手していかなければいけないということで、検討を進めている。また、施設の維持費だが、厳しい財政状況の中で努力しているが、どうしても行き当たりばったりの対応になっている。このあたりも財政サイドへの要求の仕方を変えていき、一定程度確保しながら定期的なメンテナンスができるようの要求している。</p>
委員	<p>将来新庁舎を中心にどのような大田のまちづくりをするのか意見が出る中で、やはり教育やその繋がりというのは大事ではないかという意見がたくさんあった。そうすると、新庁舎だけのビジョンや計画ではなくて、大田市全体の中で教育は重要なので、総合計画、或いはその施設の計画の中で、小・中学校を含めた全体の施設が一体となって考えることが大事。</p> <p>というのも、様々な角度でお話を聞いた時、今まではバラバラだった印象がある。次代を担う子どもたちを全体で支えるとなると、きちんとした計画のもとでどういうふうに育てるか、そのための施設は安全で学びやすい環境をどのように作るかということになる。やはり財政があるので、適切な維持管理をしながら、負担軽減を減らしながら、環境を整備するというところに繋げていかないと、バラバラでは破綻していくと感じたので、検討いただきたい。</p>
委員	<p>この3校統合が校舎設備の劣化により児童・教職員の安全面を踏まえての対応とする、というように限定的に内容が書いてある。安全を確保するのは大切なのだが、今私たちが新たな学校のあり方を検討している最中にこれだけで良いのかと個人的に思う。せっかく検討委員会の中で話し合っているので、学校のあり方の新しいビジョンを持った最初の実験的な統合ではないかと受け止めている。そのあたりはどう考えるのか。年数から言うと統合は3年後なのでまだ時間がある。地域も保護者も納得しているからと言っても、我々が議論している中でそのような方向性でいいのかと思っている。</p>
縄課長	<p>この3校統合を今回議事として出ささせていただいた中では、安全面の確保を中心に説明をさせていただいた。地域の皆さん或いは保護者の皆さんと協議をするとき、安全面も大切だが、統合してどんな教育がされるかというところが意見としてたくさんいただいている。今後の予定で示したが、それぞれの地域の代表の皆さんや保護者の皆さんと一緒に統合準備協議会を立ち上げていく。その中で、お互いの学校で行ってきた良いと</p>

	<p>ころを繋げて継承していくとか、或いは統合によって新たなものを作っていくというようなことをこの中でも協議をしていきたいと考えている。今回説明少し足りない部分もあるかもしれないが、統合後の学校でどういったことが行われるかということ、この場でも話し合いを進めていきたい。</p>
委員長	<p>重要な議題になるが、事務局から実施計画に記載する内容案が示された。これを確認し、検討委員会としてこれを了承するかどうかが諮りたい。資料に記載されている案について私の方から改めて読み上げる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>大田市学校のあり方に関する実施計画への記載（案）</p> <p>五十猛小学校、静間小学校、鳥井小学校については、遅くとも令和8年4月に統合します。校舎・施設については、現在の静間小学校を利用します。</p> <p>なお、この統合については、五十猛小学校、鳥井小学校の校舎・施設の劣化により、児童・教職員等の安全面を踏まえた対応とします。</p> </div> <p>これが記載。この内容についてこの検討委員会ですべて了承するか、協議していただきたいかがか。</p>
森部長	<p>補足させていただく。五十猛小学校、静間小学校、鳥井小学校について、先程質問があったように、長期的な視点に立ったときには、更なる再編を見据えての素案を作成している。その長期的な再編のところで改めて議論いただきたいと思っている。この3校統合については先程課長も申し上げたとおり、統合準備協議会を今から開くが、恐らく時間がかかると考えている。事務局側とすれば、統合準備協議会への一歩を早く踏み出せたらという思いがある。</p>
委員	<p>この文言で了承するかという点について、先程指摘があったように、このビジョン或いはどういうふうな教育をしたいかというところがきちんと検討委員会で議論されて、大田市の方向性を少しでも取り入れていくようなことが追記されたほうが良いと感じる。</p> <p>今回の議論の中で、武田教育長の発言にあったように、できるところからやっていくというところを追記されたほうが、ここから動き始めるという、皆さんに示す一つではないかと感じている。この文言だけだと、安全面からただ単純に数で合わせたというふうに捉えられかねないと思ったので、安全面で統合はスタートかもしれないが、教育委員会としての思いをきちっと入れていく必要があると思う。</p>
森部長	<p>次回の検討委員会までに事務局で協議し、改めて提示させていただく。</p>
委員長	<p>この記載案については、次回の検討委員会で再度検討するというようにする。</p>
<p>5. 議事</p> <p>(1) 短期・中期的な取り組みについて</p> <p>2) 大田小学校について（説明：清水係長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣校の状況について 	
<p>議事に係る質疑応答</p>	
発言者	<p>内容</p>
委員長	<p>事務局から提案のあった、実施計画への記載については次回検討することとする。本日は提案があった内容を踏まえて、どのような学校づくりを進めるべきか、或いはそれぞれの学校にどのような特色を持たせてきたいのか、このようなことを皆様から意見いただき、これを踏まえて次回事務局から改めて提案いただく流れにしたいと思う。今日の内容についての質問も受けるが、どういうふうにしたいのかということについて意見</p>

	をいただきたい。
委員	<p>大田小学校については、今後もある程度の統合を前提とすれば一定数の規模が見込まれるということだが、大屋委員の発言にもあったように、今後同じように改修が予想される総合体育館や市民会館など、そういった別の公の施設とのあり方も議論していく必要があると思う。</p> <p>それから、資料を拝見させてもらってお伝えしたかったことは、ロードマップの話に尽きる。過去も施策に対しての総括的なところがあまりなく、そこを含めて皆さんと議論したいとなっているため、少し我々の情報量が少ないと感じている。教育関係者ではないので、何が必要で、どのような規模がいるのかというロードマップが必要だと思う。</p> <p>また、高校が地域の子どもから選ばれるかという発言があったが、まさに今、大田の企業も地元の子どもたちから選んでもらえるのかという危機感を持っているのではないか。経済同友会では、未来創造プログラムのように、社会人の方から高校生や子どもにアプローチしていく、寄り添っていくということもスタートしている。</p> <p>それから通学時間の問題について。コロナ禍で在宅ワークがクローズアップされたが、一方で社会人の中では電車公共交通機関での通勤時間というのは貴重な学びの時間とする視点があり、あまりネガティブに捉えていない。</p> <p>それから今後地域を挙げて地域でどのような教育を考えていくかということで、教育長の発言の中でも、学校が地域づくりに関わり、地域が学校を支えていくという話もあった。これについても、その地域の一部の頑張りの人にその学校の運営が委ねられるという形ではなく、持続可能な仕組みを作っていくかといけない。例えばソーシャルインパクトボンドなど、地域のがんばっているものに対して公がきちんと対価を払って持続可能なものにしていくというのも、検討していただくべき事項ではないかと思う。</p>
委員長	事務局に確認したい。次回までの時間で本日配布された資料を読んで検討した事項を伝えることは可能か。
縄課長	意見がある方はどのような方法でも構わないのでお知らせいただきたい。次回の検討委員会で回答させていただく。
委員	<p>今の小・中学校の現状をお聞きしたい。言語というか英語力、そういったものが小学校から中学校それから大学受験で求められているものが以前とずいぶん変わってきている。そういった教育はどれぐらい実施されているのか。</p> <p>また、GIGAスクールでタブレットを利用しているが、日本が目指しているところはそれらを使って新しいビジネスや新しい想像ができる人材を育成するというもの。そういったときに、単に使うのではなく、使いながらプログラミングなどを早期に取り入れていくことを考えているのか。高専ではものづくりイベントをするとかなり子どもが来て、実際に簡易な言語を使いながらプログラミングをするということがもう動いているが、実際はそういったイベントではなく、本来、学校の中で基礎力としてやっていく必要がある。そこには論理的思考を早期から入れていかないといけないが、そのようなことができるような環境になっているのか。現在大田小学校の部分では、どちらかというと数で部屋や面積を考えているが、今後そういったことができるようにすると、通常教室や特別教室も、従来型の音楽や理科ではなくて、もっとそういったことができるような空間がなければいけない。コミュニケーションなど思考力を高めるためには、PBL型といってグループでいろんなディスカッションをしながらやっていくような環境もなければいけない。今後は世界と繋がっていくような形として、情報通信を使いながら教育が変わっていくというようなビジョンが出てくると、大田だけではなくて、島根県全体、それから日本全体、今度は世界、要するにユネスコのビジョンを小・中学校から</p>

	<p>海外と繋がるようなことができるというふうに考えると、ぜひ大田で学びたいと思ってくると感じた。だからその延長が変わっていくと、道具を繋ぎ合わせてどんな楽しい、あのわくわくする授業をやってくれるかっていうのが大事になってくる。そういったビジョンは我々が今まで学んできた中でなかなか発想ができず、今どういう動きがあるかというのは、日本の中でもまだそこまではいっていないかもしれないが、大田だからこぞできるというところをぜひ考えていただきたい。</p>
川津課長	<p>私の方から英語の学習の現状をお話させていただく。先程の発言にあったように、大田市の子どもたちの英語力は、学力調査でも特に話すことに関してはかなり低いというのが現状。話す機会が少ない、そういう環境が作り出されていないということと、アウトプットの必要性があるという授業体系を今後していく必要があると思っている。小学校では単語等を使ってコミュニケーションの素地をしっかりと作っていくことが大事であり、中学校では語句や文章を使ってコミュニケーションを取るのが大事なことであるが、大田市ではまだ十分に出来ていないと感じている。今夏、大田西中学校でイングリッシュキャンプが開催された。東京から大学生を招いて、参加を希望した子どもたちと英語でいろいろ行うというものである。</p> <p>プログラミングについては、GIGAスクールでそれぞれ取り組んでいる状況だが、実際のところしっかり活用できているかという点とまだ課題がある。ただ、大田市の子どもたちが少しでもプログラミングに興味を持ち、示してもらうことが大事だと思っており、今年は市内でプログラミング教室が開かれ、2会場80名の子どもたちの参加があり、GIGAスクールに慣れ親しむ活動を行っている状況。</p>
委員	<p>どちらかという点、英語は英語、プログラミングはプログラミング、それぞれが単発だが、世界の動きの中では中国やインドがAIの世界ではアメリカを抜いている。現在インドからの留学生がいるが、ものすごく成長スピードが速い。やりたいことがあって、学びたいことがあると、ネットでどんどん探してきてやっている。何か興味を持たせる、目的があるという作り方の中で、英語やプログラミングがあり、何か別で考えていく中で、情報収集をして形作っていくときに、いろんなものを結びつけていくような教育をしていく。それを一人ではなくてグループで形を作っていくとなると、コミュニケーションだったり思考力であったり、相手との兼ね合いや繋がりをどのように考えるかができる。大変な部分ではあるがそういうところも踏まえると、そこでやるためにどんな施設が必要なのかというのを考えると、学校整備をどのように考えるかが必要になる。それをやらなければ数の議論になっているのではないと言われる。それをやるためには、学校の先生だけではなくて教育委員会全体変わらなければいけない。これは学校・教育委員会だけ変わるのもだめで、地域或いは全体が変わらなければ、魅力が出てこない。将来担い手として地域を支えていくためには、やはり教育が必要だと私は思う。今までのような5教科の知識を学力として見ていくのではなくて、あくまでそれはベースであり、その次を想像して作り上げていくことが必要。特に大田は自然や文化、歴史というレガシーがある。でもこれを大田の皆さんは、価値があるという認識があるかどうか。私も島根にいて全く歴史を知らなかった。でも世界から見ると、島根は非常に魅力がある。ポテンシャルは高いが、ずっと島根にいとその価値をあまり分かっていない。グローバルになればなるほど、自分のアイデンティティとか、生まれ育った環境っていうのを世界に発信できないと、世界の中で、あなたは何をやってきたのだと言われる。そのために大田の教育が大事だと思う。どのように楽しく世界と繋がって、大田に住んでいることは非常に価値が高いという認識を持つと、子どもたちは変わる。自信を持って世界に出る。自信を持ってこの大田に住む。この価値をどう伝えるかというのは大事で、</p>

	それをこの中のビジョンでぜひ作ってもらえるといいと思っている。今までどおりの、出来ている・出来ていないという学力でもポテンシャルはたくさんある。ただ、それを引き出すのが、この学校施設の検討や、新しい学校のビジョンになってくると思うので、それは我々がやるべきこと。自分たちではなくて、子どもたちに20年後30年後、世界の中心、大田の中心で頑張ってもらう形で作るビジョンだと思っている。ぜひ検討していただきたい。
委員長	今日教育長が思いの丈を発言され、非常に意欲を感じたし、委員方の発言を受け止めるような魅力化づくりもその中に入ってくると思っている。どういったビジョンを持つのか、それに基づいてどういうロードマップを描くのか、そのためには現状と課題を明らかにしながら、進めていく必要があると思っている。
<p>6. その他（説明：縄課長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 次回開催予定日の確認 日時：12月22日（金） 場所：大田市役所4階大講堂 ● 11月12日開催 再編・統合案説明会のお知らせ <p>7. 閉会</p>	

以上をもって、第2回検討委員会を終了した。